

今月第5号は九州部北九州クラブの宮川 詩麻ワイズにご登壇いただきます。



EMC

もっと優しく。もっと分かりやすく。もっとシンプルに。

九州部北九州クラブ

宮川 詩麻ワイズ

私は直前期に、九州部 EMC 事業主査のお役目をさせていただきました。「会員異動報告書」が届くたびに、「入会かな？入会でありますように！」と期待して読んでみると「退会」の文字。主査としてだけでなく、ワイズのメンバーとしても、淋しい思いを何度も経験しました。

退会理由は「仕事が多忙になったため」とか「家庭の事情で」とか。「ああ、それならそれで仕方ないか」「それぞれいろいろあるからさ」と納得しつつ「でも本当は、魅力を感じなくなったのかなあ」とか、「楽しくないのかなあ」と、ワイズ活動の根幹にいつも思いが飛んでいきました。私が受け取った中には「このクラブにいる意味を見出せないから」の退会理由は一つもありませんでしたが……。一般からは遠い存在イメージ。何か難しそうないイメージ。何をするとところなのか説明がつかないという曖昧な意見。

しかし、そう言いつつも、在籍し続ける人が多いということは、この場所に言葉では表現しにくいけれども、目には見えないけれども、美しいきらりと光る何かが潜んでいるからだと思うのです。私も、その摩訶不思議な空気感や魅力を潜在的に感じているからこそ、在籍し続けているのだらうと思うのです。それを説明しやすい、分かりやすい、形のあるものに出来たらというのが私が描くワイズ活動の理想です。そこから EMC が広がっていく。今、様々な厳しい時代の中にあって、奉仕を前面に打ち立てていわゆる「勧誘」行為をしたところで、プラス思考にさせるところか、時間的にも状況的にも金銭的にもそれどころではないというマイナス思考を吹き込み、落ち込ませるだけのような気がします。

「入会して下さい」と言う前に「ぜひ仲間になりたい」と言われたい。「こんな集まりがあったのですか」「ここは自他ともに優しいね」「ほーらワイズの人になって良かったでしょう？」と微笑み合いたい。この優しい場所にたどり着いたこと、仕事とは違った経験が出来ること、ここにつながっているだけで社会貢献が出来ているという充足感……決して曖昧なクラブではないのですよね。ここには恩恵や感謝が詰まっています。そして大きな組織という力。協働しようとするエネルギー。私は楽しい。楽しんでいます。

死ぬ瞬間「お前は人生を楽しんだか？人のために何かしたか？」と神様にその2つを問われるという話があります。ここには、そのどちらも存在します。ワイズメンズクラブという、世界に広がる組織の中に身を置かせてもらっている自分。何と誇らしく、有難く、なぜこの場所に連れてきてもらったのだらうと思います。

この感謝と喜びを誰につなげようか。この神様から与えられた場所を退会するのはとてももったいないなあと思います。私…私たち…仲間たち。手をつなげばこの組織力で世の中を直すことだって出来るのに。ここにいたら何かいいことがあるよ。それを周りに振りまいて差し出して与えよう。でも、まずは、与えられなければ、と思います。そのメリットを、少しでも早く見つける(作り出す)ことだと思っています。

私はクリスチャンではないのですが(父親は神主なので、神道寄りの考えに近いかもしれませんが)聖書の中に「誰を使わそうか」と神様が問う。すると「私がここにおります。私をおつかわし下さい」と申し出るという場面があったのをいつも思い出します。「私がここにおります。私を使ってください」と、私は手を上げる勇気を持ちたいと思います。一緒に手を上げる仲間が集まってくれますようにと、祈りながら…。

(九州部直前 EMC 事業主査)

次月12月号は京都部京都トップスクラブの牧野 篤文ワイズにバトンタッチいたします。